講座報告

働く女性のためのステップアップセミナー

令和3年9月25日(土)、10月4日(月)、10月27日(水)[全3回]

今年で11年目を迎える本講座、修了生は約300名にのぼります。今年度は23名の受講生を迎え開催しました。企業等で働く女性が、指導的立場としてさらに役割を拡大するためのスキルアップやキャリア開発を支援するとともに、組織を越えたネットワークづくりの形成を目指しています。今後もフォローアップ講座を開催し、働く女性のネットワークの拡充をサポートします。

主体的にキャリアや仕事を考え、キャリア形成の基盤を強化するプログラムを3回にわたって実施。第1回のみ新型コロナウイルス感染症によるムーブ休館に伴い、オンラインでの開催となりました。公開講座では、東日本電信電話株式会社 執行役員の境(さかい) 麻千子(まちこ)さんより、これまでのキャリアの変遷とキャリア形成のヒントについてご講演いただきました。受講生は、ワークショップ形式を用いた実践的なビジネスコーチング、マインドフルネス体験を通じた心身コントロールの方法、エニアグラムによる自己理解などさまざまなスキルを学び、今後のキャリア形成について考えるとともに、受講生同士の交流を通して課題を考えるなど重層的な学びの場となりました。

主催：北九州市総務局女性活躍推進課(ウーマンワークカフェ北九州) 共催：男女共同参画センター・ムーブ

領事館セミナー&働く女性のためのフォローアップセミナー

女性のエンパワーメント ～多文化共生の視点から～

令和3年9月4日(土)14:00～16:00　オンライン配信

主催：(公財)アジア女性交流・研究フォーラム、男女共同参画センター・ムーブ

「女性管理職セミナー」「働く女性のためのステップアップセミナー」の修了生を対象とし、年2回開催しているフォローアップセミナー。今回は、(公財)アジア女性交流・研究フォーラムの「領事館セミナー」との共同開催で、在福岡米国領事館よりユキ・近藤・シャー領事をお迎えし、女性活躍を推進し、多様性を尊重しながら誰もが活躍できる職場や社会構築に必要なことをお話しいただきました。

【講師】在福岡米国領事館 広報担当領事 兼 福岡アメリカン・センター 館長 ユキ・近藤(こんどう)・シャーさん

西日本新聞社 執行役員 北九州本社代表 兼 営業部長 甲木(かつき) 正子(まさこ)さん

領事の母親は日本人、父親はバングラデシュ人。自身の多文化背景や日米の相違を紹介しながら、多文化共生社会を実現するには、政治参加者の多様性を高めることが大切であると強調されました。領事自身、外交官として言葉や文化、歴史が異なる人々と交流する上で、相手の考えや立場を尊重し理解しようと努めることや、相手と共通の価値観を見つけ同じ目標に向かって力を合わせることを心がけているとお話しされました。西日本新聞社の甲木さんとの対談では、自身のキャリア形成についても触れ、続く質疑応答では視聴者から寄せられた質問に対して実体験を交えてアドバイスするなどし、領事との対話を通じてジェンダー平等についての理解を深める講座となりました。

高校生キャリア形成プログラム

考えよう、あなたの未来 ～働き方、暮らし方～

令和3年8月8日(日)14:00～15:15　オンライン配信

第1部 「働き方、暮らし方」を考える課題研究発表

【発表者】福岡県立東筑高等学校3年 砂川(すながわ) 史佳(ふみか)さん

第2部 講話「大切にしよう、自分のこと。」

【講師】臨床心理士 黒瀬(くろせ) まり子(こ)さん

第1部では「指導的地位の女性割合を2020年までに30%にする」という政府目標が未達成だった背景を高校3年生が調査し、その成果を同世代に向けて発表しました。施策の根本的意図が男女平等ではなく労働力の確保であったことや、女性社員育成の視点の欠如などがその要因であると考察しました。そして働く女性へのインタビュー結果を紹介し、政府目標の達成には、伝統的な日本の労働環境の変革や、家庭と仕事の両方で責任を持つ人への理解が必要であるとしました。最後に自分たちの将来のために、社会の出来事に興味や疑問を持ち、政治に関心を寄せ投票に行くことを提案しました。

第2部ではムーブ発行のデートDVと性暴力をテーマにした若者向けの啓発冊子『大切にしよう、自分のこと。』をテキストに、臨床心理士がお話をしました。親密な関係間で起こる肉体的、精神的、社会的、経済的暴力に焦点を当て、どちらかが一方的に我慢や束縛を強いられる関係になっていないかと問いかけ、お互いに尊重し合える関係を築いていくことが大切であると語りかけました。

主催：北九州ひとみらいプレイス、(公財)アジア女性交流・研究フォーラム、男女共同参画センター・ムーブ

第2回　北九州地域のさまざまな分野でご活躍中の皆さまをエッセイでご紹介します。

リレーエッセイ ムーブと私

ムーブという居場所

北九州市女性団体連絡会議 会長
沼田(ぬまた) 文子(ふみこ)さん

Profile
北九州市生まれ。北九州市立幼稚園に勤務。…途中4年間、北九州市教育委員会指導部指導主事。市立幼稚園退職後、4年間、いのちのたび博物館MT。2014年より、北九州市女性団体連絡会議会員となる。

ムーブのイベントに初めて参加したのは20年前。その頃開催されていたムーブフェスタの「七夕パーティー」で、ムンバイの子どもたちを支援する『セサの会』の指導主事仲間とミッキーマウスマーチを踊ったときでした。

北九州市女性団体連絡会議の会員になってからは“男女共同参画社会の形成”に向けた取組の活動の場としてお世話になっています。

北九州市女性団体連絡会議は、1984年に北九州市7区の女性団体連絡会議で組織され、以後、女性の視点を生かしたまちづくりや地域の活性化につながる「男女共同参画フォーラムin北九州」(全体フォーラム・地域フォーラム・PR活動)やリーダーの育成を図る研修会を重ねてきました。そしてムーブでは、毎回ムーブフェスタ市民企画事業に参画しており、ムーブは他の関係団体との連携をも深めた繋がりを育む場所ともなっています。

近年の大型台風や地震、高潮等による自然災害に危機感をもち、本会ではムーブの協力を得て、令和元年度福岡県「女性による元気な地域づくり応援講座事業」に取り組み、災害対応におけるさまざまな意思決定過程の場での女性の参画や日頃から女性もまちづくりに参画しリーダーシップを発揮していくこと等の必要性を再確認しました。令和2年度には北九州市発行の『災害に備えよう～男女共同参画の視点から～』の作成に携わり、以後の研修会においてもこのハンドブックを活用し防災における男女共同参画を推進するなど、ムーブは情報発信の場ともなっています。

また本会は、「ムーブ喫茶」を開いています。他団体と親しく語り合い繋がる場所としてぜひお立ち寄りください。

第15回「北九州市女性活躍・ワークライフバランス表彰」受賞者決定!

本市では、女性の職業生活における活躍や、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む企業等を表彰し、その取組内容を広く市内企業や市民の皆さまに紹介しています。この度、第15回の表彰企業等を下記のとおり決定し、北九州市役所にて表彰式を行いました。

各受賞者の詳細につきましては、HP「はじめよう! ワーク・ライフ・バランス」をご覧ください。
(http://wlb-kitakyushu.jp/commendation/)

市長賞 日鉄高炉セメント株式会社

トップの思いを全社員で共有。強い推進力で、社員とともに築く「幸せを感じる職場環境づくり」。

市長賞 大東コーポレートサービス株式会社 北九州事業所 地図情報センター

社内業務のDX化により誰もが働きやすい職場環境づくりを追求する、人にやさしい企業。

奨励賞 三島光産株式会社

伝統ある企業が女性の職域拡大と社員のワーク・ライフ・バランスを加速。

奨励賞 株式会社タカギ

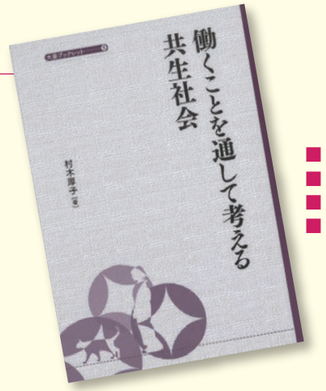
皆が楽しく働ける職場を目指し、ダイバーシティを強力に推進。

奨励賞 株式会社ハピクロ にじいろのはな保育園

お互い様の精神とIT等の活用で、保育現場に新たな可能性を生み出す。

お問合わせ　北九州市総務局女性活躍推進課　TEL：093-582-2209

働くことを通して考える共生社会



■ 村木 厚子 著
■ 日本経済評論社
■ 2021年初版
■ 1,300円(税別)

前半は、中学時代は引っ込み思案で人見知り、友達も少なかった著者が、地元の大学を卒業後、国家公務員として厚生労働省で働き、一般職員トップの事務次官になるまでを振り返りながら綴る、若い女性たちへの応援メッセージである。

仕事をすることで「進歩していく」面白さを知った著者は、ポストが上がると、何かが見えるようになり、できるようになると実感。管理職への昇進を躊躇する女性たちに「昇進のオファーは受けよ」と勧める。仕事と子育ての両立においても、「悩む時は生産的に悩め」「絶対に“貸し借りの感覚”だけは忘れるな」と具体的にアドバイス。さらに「仕事で一番面白いのは課長、次は局長」というくだりでは、管理職の先輩女性たちによる的確で温かい助言に助けられ、少数であるがために営々と引き継がれてきたよき連鎖に恵まれたと述懐する。

後半は、思いもよらぬ郵便不正事件の冤罪に巻き込まれたことによって、常に「支える人」であった著者が、初めて「支えられる人」の側を経験。無罪判決後、東日本大震災の避難所視察では、被災した人々に逆に励まされ、人は何かの役に立つことで生きる勇気を得られることを知る。福祉の肝要は、ハンディがある人が支える側に回れることではないかと気づくのである。「共生社会」とは、誰もが相互に尊重しあい、多様な在りようを認め合う社会であり、障害のある人も働き、さまざまな人たちを巻き込んで社会を支えることで「包摂的な成長」を実現できると訴えている。

北九州市立文学館 館長　**今川 英子**さん

管 理職と女性

1999年に「男女共同参画社会基本法」が施行され、2003年に政府は、2020年までの女性管理職比率の目標を30%になるよう掲げた。2015年には「女性活躍推進法」が成立、2019年にその取り組みは強化されたが、2021年におけるその（課長相当職以上）比率は全国で8.9%（帝国データバンク調査）にすぎない。その要因として「女性自身が管理職になりたがらない」「家庭生活と仕事の両立を支える体制整備に課題がある」などが挙げられている。

時代をきりひらいた日本の女たち

■ 落合 恵子 監修
■ 小杉 みのり 文
■ 岩崎書店
■ 2021年初版
■ 4,500円(税別)

統計によると、2021年の小中学生女子の「将来なりたい職業」は、小学生がパティシエや教師、保育士。中学生になると会社員や公務員、看護師などがランキングの上位を占めるという。

そんな現実的な夢を持つ今の女の子たちは、『時代をきりひらいた日本の女たち』（岩崎書店刊）をどんな風に読み、貴重なメッセージ「権利の上に眠るな」をどんな風に聞くだろうか。

監修した落合恵子さんと文を書いた小杉みのりさんが、すべてのページにひらがなのルビをふり、朝野ペコさんの明るいイラストを添えたのは、ケーキづくりに憧れる女の子や漫画大好き少女たちが、放課後の静かな図書館で、ワクワクしながら、このずっしりと重い本を読み耽る姿を思い描いてのことだったに違いない。

考えてみれば、私も子どもの頃は「歴史に学ぶ」意味や大切さが分からなかった。

明治の時代に実業家になった女性や、75年前、やっと女性参政権を得て初の国会議員になった女の人生など、遠い昔の、自分には無縁のものと思っていた。でもそんなことはない。社会に巡らされた壁が高かった時代、真っすぐに「自分を生ききった」女たちがいたことを知れば、大きな勇気をもらえるはずだ。また、時代が近づくにつれ、女性の職業が多様に広がっていくのが分かって、大人の私たちも目を開かれた思いにさせられる。

本書に綴られた31人の人生の物語が教えてくれるのは、「自分と他人を比較せず、自分の可能性を信じること」の大切さである。

映画監督・作家　**松井 久子**さん

権 利の上に眠るな

本書の中で特に私の心に響いたのが、市川房枝さんが若い女性たちに贈る言葉として大切にしたという「権利の上に眠るな」である。戦争が終わって法律が男女平等に改正され、さまざまな権利が与えられながら、75年を過ぎた今でも黙っている女性は少なくない。「権利の上に眠っていれば、その権利を取り上げられ、女たちは再び不自由な、あの戦前の地位に引き戻される心配がある」そんな房枝の危機感にこたえるのは、後に続く私たちだ。

マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か
#MeTooに加われない男たち

■ 杉田 俊介 著
■ 集英社
■ 2021年初版
■ 920円(税別)

話題の「男性学」や「男性性研究」についての極めてよくまとまった本である。「ジェンダー論は進化＝深化する」という視点から見れば、最新のジェンダー研究を含めた一種のミニ百科事典にもなっている。著者が得意のポピュラーカルチャー（アニメや映画など）を巧みに使っているのも、理解を深めるのには便利だ。

基本的視座も「マジョリティとしての男性」、「（男性たちの）剥奪感」、さらに「男性とケア」など、ここ15年ほど評者（伊藤）が一貫して提案してきたものでもあり、深く共感できる（日本でほぼ最初にこうした議論を提案した評者の名前がどこにもないのは、ちょっとフェアではないように感じたけれど）。

「現にある構造的差別や制度的不公正に対する無関心、不干渉であり、それこそがマジョリティの特権」という視座も明確だ。ここから、現在、問題になっているトランス排除（トランスジェンダー、特にトランス男性への排除問題）について、遠藤まめたさんの定義「（差別の一つの定義として）マジョリティの人間が実態を無視した語りを広めて、マイノリティの経験や語りを無効化すること」を用いて議論している部分は、多くの人に読んでもらいたいところだ。

無自覚なマジョリティ男性の出口をきちんと示している（「正しい男」よりも「まっとうな男」をひとまず目指す）点や、剥奪感のなかでマジョリティ男性の「階級闘争」が生じていること、さらにラディカル・メンズリブの提案など、男性論に関心のある人には必読の一冊だ。

京都大学・大阪大学名誉教授　**伊藤 公雄**さん

ジ ェンダー論は進化=深化する

男性性研究の深まりの一方で、SOGI（性的指向および性に関する自己認識）の多様性の議論や、複合差別や交差性の議論、第三波フェミニズムやポストフェミニズムなど新しい動きが生まれている。本書は、こうした点もうまく整理している。

わかりあいたいのに、なぜかすれちがう
女と男、このしんどさは誰のせい?

毎日新聞論説副委員長　**元村 有希子**さん

■ 描き子 著
■ 永岡書店
■ 2021年初版
■ 1,400円(税別)

少し前に「ポテトサラダ論争」、というのが世間をにぎわせた。真偽は不明だが、スーパーマーケットの総菜売り場でポテトサラダを選んでいた子連れの女性が、見ず知らずの高齢男性から「母親ならポテトサラダぐらい作ったらどうだ」と、叱責されたという。

作ったことのある人なら、ポテトサラダ「ぐらい」ではないことは分かる。ジャガイモをゆで、熱々の皮をむき、キュウリを塩もみしたりタマネギを水にさらしたりと、かなりの手間がかかるのだ。「母親なら」も余計なお世話である。おそらくこの男性にとっては、家事も育児も完璧にこなす「良妻賢母」以外、母親とは認められないのだろう。

ここまで極端ではないとしても、社会的な性差にかかわる固定概念――ジェンダーバイアスは誰もが持っている。そこから自由になることは難しい。だからこそ、自分がどんな部分でバイアスにとらわれているのかを知っておくことは重要だ。

本書の著者は、女／男という性を背負って生きることのややこしさを、真剣に、時にユーモラスに考察する。例えば、女性は生まれながらに「魅力的な女ランキング」に参加させられ、男性は「成果を出そうレース」から降りられない。こんなナンセンスな競争が無くならないわけを、これまた真面目に深掘りしようと試みる。

恋愛観、仕事観、結婚や子育てまで、互いに感じるモヤモヤが漫画で描かれ、ぐいぐい読み進められる。所詮わかり合えないのだという前提で、男友達と本音やうらみつらみをさらけ出し「すり合わせる」コラムが随所に挟まれるのも効果的だ。

他者を、その人の立場に立って理解しようとすることをエンパシー（共感）と呼び、シンパシー（同情）とは区別される。女と男もエンパシーでなら歩み寄れるかもしれない。多様なセクシュアリティを持つ人々への理解が、その営みの延長線上にあることも、本書はきちんと指摘している。

令和4年度 おすすめ講座紹介

いまどきママのリフレッシュ講座

自分らしく生き生きと過ごすための講座です。
家事、育児、仕事…毎日がんばっている自分にリフレッシュのひとときを!
新しい刺激やママ友を見つけて、心と身体の健康を維持しましょう。

■ 日　時　4月5日(火)、12日(火)、19日(火)、26日(火)[全4回]10:00～12:30
■ 定　員　12名(抽選)　■ 受講料　3,500円(材料費・保険料込)
■ 対　象　妊娠中～就学前の子どもがいる母親
■ 託　児　有(6ヵ月～就学前まで)※要予約(1人1回500円)

申込締切
3月11日(金)

働く女性に贈る! お役立ちワンポイントセミナー

毎回異なるテーマで働く女性に役立つ講座を開催します。お気軽にご参加ください。

心も輝く!キャリアアップ＆ビューティー講座

毎日をもっと楽しく、輝くために! 新年度のスタートにピッタリの講座です。

■ 日　時　4月2日(土)、9日(土)、23日(土)[全3回]13:30～16:00
■ 定　員　20名(先着順)　■ 受講料　1,500円
■ 対　象　働いている女性、またはこれから働きたいと思っている女性
■ 託　児　有(6ヵ月～就学前まで)※要予約(1人1回500円)

大好評
募集中

ストレスケアの処方箋

新しい環境で疲れやストレスを感じやすい時期に、自分に合ったストレスケアの方法を身に付けて生き生きと自分らしく過ごしましょう!

■ 日　時　5月13日(金)、20日(金)、27日(金)[全3回]19:00～20:30
■ 定　員　20名(先着順)　■ 受講料　2,000円程度　■ 託　児　無
■ 対　象　働いている女性、またはこれから働きたいと思っている女性

4月6日(水)から
受付開始

お申込み・お問合わせ　事業課　TEL：093-288-6262　FAX：093-583-5107

メール相談のお知らせ

ムーブ相談室では、時間や場所を選ばずにご相談していただけるよう、メールによるご相談をお受けしています。ムーブホームページの「相談したい方」をクリックし「各種相談」の「メール相談」からお入りください。なお、回答までに1週間程度の時間を要しますので、お急ぎの方は「こころと生き方の一般相談」にお電話ください。

冊子『未来をひらくあなたに』(無料配布)

若者世代(主に高校生・大学生)に向けた、ジェンダー平等に関する気づきを多角的に取り上げた一冊です。
自分の問題としてジェンダー平等・あなたの未来を考えてみませんか。

3月末
発行予定

北九州市立
男女共同参画センター ムーブ
〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11番4号
TEL：093-583-3939　FAX：093-583-5107
E-mail：move@move-kitakyu.jp
HP：https://www.kitakyu-move.jp/
公益社団法人
アジア女性交流・研究フォーラム
KITAKYUSHU FORUM ON ASIAN WOMEN
北九州市立男女共同参画センター・ムーブの指定管理者

ムーブHP▲

アクセス

●JR西小倉駅から徒歩15分
●西鉄バス「ソレイユホール・ムーブ前」下車
【小倉駅バスセンターから】27　36　45　110　138
【小倉駅入口から】150　170　175　197
【天神バスセンターから】西鉄高速バス いとうづ号
●北九州都市高速 勝山ランプ・大手町ランプ出口から約3分

地下駐車場　100台収容(車高制限は2.1m)
30分ごとに100円　8:15～22:15(入庫は22:00まで)

Facebookページでイベント情報をはじめ、いろいろな情報を発信しています。

MOVING
vol.96
ムービング
2022年2月28日発行
発行　北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
〒803-0814　北九州市小倉北区大手町11番4号　TEL:093-583-3939
デザイン：奥 博文